

式 辞

この美しい春の一日、希望に満ちた二百名の新入生の皆さんをお迎えして、ここに兵庫県立津名高等学校第七十一回入学式を挙げていただけますことは、私たち教職員にとりましても大きな慶びであります。ご多忙の中ご臨席を賜りました同窓会長 高島玲子様、PTA会長 正司和史様をはじめご来賓並びに役員の方々、また保護者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

保護者の皆様におかれましても、立派に成長したお子様の晴れ姿をご覧になって、さぞかし頼もしく感じておられることであらうでしょう。心からお慶び申し上げます。

さて、新入生の皆さん、入学おめでとう。

高校生としての第一歩を踏み出す日にあたりまして、本校教職員を代表して、皆さんにお祝いと激励のことばを申し述べさせていただきますと思います。

皆さんが本日入学された本校は、夢に向かってチャレンジできる高校です。私たち教職員はあなたがたを一人ひとりを大切に、三年間を見守り育てたいと思っています。

皆さんが高校生として、立派に成長し、今後の人生を幸福で、たくましく生きるために、本校の校訓「自主、誠実、勤勉」に込められた精神に基づき、三点提案したいと思います。

第一に、主体的に、しっかりと自分の将来にむけての目標を見つけ、日々努力することが大切です。

そのためのヒントとして、イチロー選手のやり方を紹介します。

大リーグで活躍しているイチロー選手は、オリックスの二軍時代に神戸総合運動公園近くの寮である「青濤館」に住んでいました。19歳の頃、9時から5時まで練習をして、6時に寮に帰ったら、洗濯、入浴、食事をして、早く寝る。夜中に起きて、1時から室内練習場で、マシンを相手にバッティング練習。納得するまで練習していました。

なぜ、そこまで集中できるか。イチローはこう言っています。

「僕は必ずその日のうちに、自分がやるべき、毎日の目標があるんです。目標をクリアすると、また次の目標が出てくる」

イチローは一日一日、目標をもって生活をしていました。しかも、その目標は高すぎるのではなく、手に届くものにする。これについて、イチローはこうも言っています。

「手に届かないとしんどくなる。辛くなる。そうするとマイナスになる。そうすると目標をあきらめてしまう。挫折につながる」

「目標が自分の手に届くと嬉しいでしょ。だから充実した毎日が過ごせる。だから、プラスに考えることができる」

これが、イチローが、皆さんとそう年齢が違わない19歳の時に考えて実行していたことです。

目標を持って、毎日、たゆまぬ努力をし、克服する点を一つ一つをクリアしていく。そういう積み重ねが現在のイチローをつくったと言えます。

イチロー選手のように素晴らしい人となるように、皆さんに提案をしたいと思います。まず、「志」を立てることが大切です。志がなければ、漫然と過ごし、大きな成長はかなわないでしょう。自分はどうなりたいという「自分の完成図」を描き、一日一日の目標を作り、実践し、「小さな成功」を積み重ねる事が大切です。

第二に、誠実な姿勢をもって、人と協働して、豊かな人間関係をつくることです。

皆さんは、今回入学した津名高校で、クラスやクラブなどでたくさんの友人をつくり、また、先生方やまわりの人と信頼関係をつくってほしいと思います。

オーストリア出身の心理学者アルフレッド・アドラーは「人は人の中でしか幸福は感じることができない」と述べています。また、アドラーは共同体感覚が大切だと言っています。他人を仲間だと思い、他人に貢献したいという共同体感覚を持つことで、まわりの協力も得ながら、困難や課題も解決に向かうでしょう。

そして、自分が今こうあるのは家族やまわりの人によって活かされているのだという感謝の気持ちを持ち続けることで、自分自身をもっと幸福にし、成長させてくれることでしよう。

第三に、勉強そして、部活動、学校行事に全力を注ぐことです。

津名高校では、活発な部活動、充実した学校行事、大学との連携授業や、地域での貢献など多数の活躍の場があります。これらの活動に積極的に参加し、「心の新鉦脈」すなわち、自分の心の中に存在する新たな可能性、あらたな自分を発見し、成長してほしいと思います。

本日の入学式にご列席の保護者の皆様、お子様の入学、心からお祝い申し上げます。お子様を本校にあずけてくださったことを心から感謝申し上げます。入学後は、一人ひとりの夢の実現に向け、一人ひとりを大切にしたい指導をこころがけ、私たち教職員と生徒の皆さん、保護者の皆さんと心の通いあうコミュニケーションをとり、卒業の時には満足していただけるよう、我々教職員一同指導させていただきたく決意です。

今後とも、本校が発展できるよう、ご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日の入学式にご臨席賜りましたご来賓並びに関係の皆様へ心から感謝申し上げます、式辞といたします。

平成二十九年四月十日

兵庫県立津名高等学校 校長

中 村 勝 年